

夢物語ではなく、現実の話です。今年、喜寿を迎えるにあたり、最高のプレゼントがもたらされた。「ひ孫」ではなく、「ピッカピカの初孫」です。なぜかこれまでなかなか縁がなく、孫は夢の世界だったが、この年になってようやく夢が現実となった。

離れたところにいるので、初孫との初対面は、生まれて3カ月がすぎた今年5月のこと。初めて抱いた感じは、じっとこちらを見ながら時々笑うそぶりを見せ、唯々かわいい。この子が成人を迎えるとき、自分は何歳になるのか。それまで頑張らねば……。今、なかなか会えないのが寂しい。こんどいつ抱けるのか。

あるマスコミの、「孫」の投稿川柳入選句に、こんなものがある

- ・ 「初孫は 光源氏によく似てる」
- ・ 「老いの身が 孫の誘いに 鍛えられ」
- ・ 「孫来たり 節約モード 小休止」
- ・ 「話せねど 顔がもの言う 赤子かな」
- ・ 「孫自慢 すればするほど 嫌われる」

そこで、私も一句

「もう喜寿か いやまだ喜寿だ 初孫だ」

この子が成人するまで、元気で頑張れ！という、目標と元気をもらったような気がする。更なる人生の出発点かも知れない。

---

#### <余談>

「孫の日」というのがあるのを初めて知った。10月の第3日曜日。祖父母と孫のコミュニケーションを深めることを目的に、日本百貨店協会が提唱し、日本記念日協会の認定を受けて平成11年から始まったもの。母の日、父の日と同じように単なる記念日で、国民の祝日ではない。記念日として提唱したのが日本百貨店協会なので、目的はもう明白。敬老の日の1か月後というのが、敬老の日に対するホワイトデーのようなもので商魂逞しい。

これからは、人並みに「孫の日」を祝うことになるのか。

2017/05/25